

猿新聞

謹賀新年

個体調査・続

宇陀・名張 地域鳥獣害防 止広域協議 会では、昨年 末個体調査を 行なっていま す。主に群れ の頭数や年齢 構成、新しい 群れの発見な どの調査です。

名張A群に ついては8頭増の総数43 頭という最終結果が出て いますが、B群について は、12頭も減少していま した。また、昨年7月の はじめ頃、遠く離れた宇 陀市菟田野町周辺で名張 B群(B1B2)の電波と15 6頭の個体を宇陀市職 員が確認して「これは群 れ分かれだ！」と大騒ぎ したことがあります。そ の要因やB群の現状を明 らかにするため、宇陀・ 名張地域鳥獣害防止広域 対協議会では、モンキー ドッグ倶楽部や地域住民 にサル集団の目撃情報の 収集を呼びかけています。

B群の現状は、名張市 獣害対策指南員によると B1B2集団の遊動域は国道 165号線より南側地域 に限られ、移動距離は短 く数日同じ集落とどま ることが多い。B3は年老 いて動きが鈍く、1頭で 単独行動しているのを目 撃されています。また、 B1B2と共に移動行動す ることも確認されています。

鳥獣害の原因を探る

近年、全国的に鳥獣被 害が深刻化しています。 その原因は何にあるの でしょうか？

野生動物による農業被 害の原因の殆どは、人間 がつくっているとも言わ れています。

古代より人間と野生動 物は、適度のバランスを 保ちながら自然の恵みを 共に享受し、共存してき ました。

戦後国家施策で行われ た針葉樹の植林は日本の 森林の40%を越えるほ どになって、昔の広葉樹 林に比べて豊かではなく、 一見、緑に覆われた森林 も、その大半が手入れが 行き届かなく、昼なお薄 暗く、深閑としており生 き物の気配を感じること がなく、生物多様性の劣 化度は著しいと思われま す。日本経済高度成長期 の20世紀の中頃から後半 にかけて、生物多様性のバ ランスが崩れ始め、野生 動物の農業被害が急激に 目立ち始めて来ました。

編集・発行 山村 準
tel:0595-63-1725
Email jyun.y@asint.jp

サル対策は根気だ！

「魅力のない場所」にす るために、何をすべきか 抜本的な対策を考える時 期が来ていると思います。

サルは、 山で少ない エサを探す よりは、集 落に集中し て楽に得ら れるエサを 食べようと します。

つまり、集 落の農地は サルにとつ て魅力的な エサ場とな っています。

収穫後の 残さ、「作 り捨て野菜」 等を畑で放 置することは餌付と同じ 行為で、サルをおびき寄 せる大きな要因となり恒 常的に被害をもたらす群 れをつくります。

また、栄養状態が良く なり、個体数の増加にも つながります。 サルの目から作物を隠 して栽培しましょう。 サルは辛味や香りアク の強い植物は嫌がります。 守りたい野菜の周りに サルの嫌いな野菜や背の 高い草花などを植えて、 サルの目を反らすことも 効果的です。また、収穫 することのない果樹や桑 などが多く残っていて、 サルを呼び寄せています。 これらは思い切って処分 を検討しましょう。 サルは森に住む動物で 開けた場所は好みません。 農地周辺の草むらの刈り 取りも効果があります。 猿害対策で最も大切な ことは、農地を含めた集 落全体をサルにとって

矢川環境保全会 研修会

昨年12月 14日矢川環 境保全会は 恒例の研修 会を開催し ております。 今回は、 伊賀市真泥 地区の「み どり農地・ 水・環境保 全向上会」 さんを訪れ、 農地周りの 水路、農道等の長寿命化 のための活動、農業者だ けでなく、地域住民、自 治会、関係団体などが幅 広く参加する活動や環境 美化運動、獣害対策につ いて画期的な話を聞くこ とができました。



ドグラス)を 用いた除草労 費の軽減。 リコリス (彼岸花)の 根は猛毒なの で、モグラや イノシシ避け に効果的。 アジサイ・芝桜II環境 美化。

真泥地区は服部川沿い に戸数130戸、農地面積110 畝を有する近在でも比較 的大規模な農業集落です。 研修会受け入れは初め てということでしたが、 区長はじめ皆さんが暖か く歓迎してくれました。 「みどり農地・水・環境 保全向上会」は、会員127 名で構成。本事業は人・ 農地プランと合わせて少 子高齢化の進む中で地域 の環境を守り、農業を安 定させて将来につなげて いく事業と位置づけ、今 後の農村環境を考える時 地域住民全員で他人事で なく、自分のこととして 活動しなければならぬと、西 卓治会長は熱く 語られていました。 現地見学 ムカデ芝(センチピー

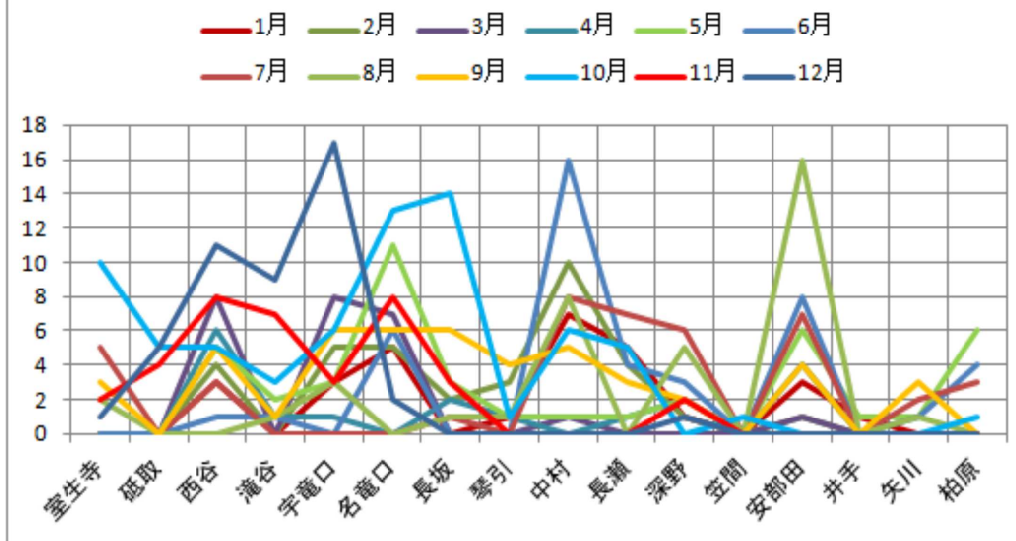
サルの出没状況

名張A・B群

指南員報告 12月サルの動 向 A群は、先 月は青蓮寺湖 と比奈知湖で 栗等が豊富に あった為往來 が多く、今月 ごろから柿の み、食べ物少 なく、移動範 囲が少なく柿の豊富な集 落、地域に群れの出没の 日が多く見られ被害の報 告がよく聞かれるよう だす

B群の現状は、名張市 獣害対策指南員によると B1B2集団の遊動域は国道 165号線より南側地域 に限られ移動距離は短 く数日同じ集落とどま ることが多い。B3は年老 いて動きが鈍く、1頭で 単独行動しているのを目 撃されています。B1B2と 共に移動行動することも 確認されています。 尚先月 より多く農作物の被害の 苦情がよく聞かれるよう になりました。

名張B群出没グラフ



名張A群出没グラフ

